

おすすめ! NPO / 活動レポート vol.2

NPOとは、地域が抱えるさまざまな問題解決に取り組んでいる民間の非営利団体のこと。(ろうきん)は、そんな活動を応援しています!

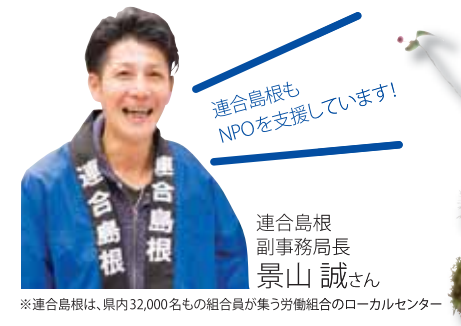
知ってほしい。NPOの活動。

2012年11月25日(日)、松江市のくびきメッセで開催された「地SUN地SHOW祭り」。(ろうきん)は、「松江地区労福協労金部会」のメンバーとしてNPO団体とともに参加しました。イベント当日の様子と、2つのNPO法人の活動をご紹介します。

このイベントを、NPOを知るきっかけに

島根県内各地の特産品・農産加工品などの販売ブースが立ち並び、連合島根※主催の「地SUN地SHOW祭り」。県内の農産物や特産品のPRと、地元企業の活動を広く知ってもらうことを目的とし、毎年多くの来場者で賑わっています。

「松江地区労福協労金部会」は、NPO法人「もりふれ倶楽部」「みけねこ」とともに、NPOや「中国ろうきんNPO寄付システム」の周知を図るために参加。継続的に取り組んでいるNPO支援の活動を紹介しました。



連合島根もNPOを支援しています!

連合島根 副事務局長 景山 誠さん

※連合島根は、県内32,000名もの組合員が集う労働組合のローカルセンター



1 毎年約5千人の人が訪れる。ブースからは威勢のよい掛け声が
2 さまざまな形が楽しい「みけねこ」の手作りクッキー 3 もりふれ倶楽部が企画した「こけ玉作りコーナー」は大盛況 4 間伐材を使って小物作り
5 松江地区労福協労金部会のコーナーに参加したみなさん

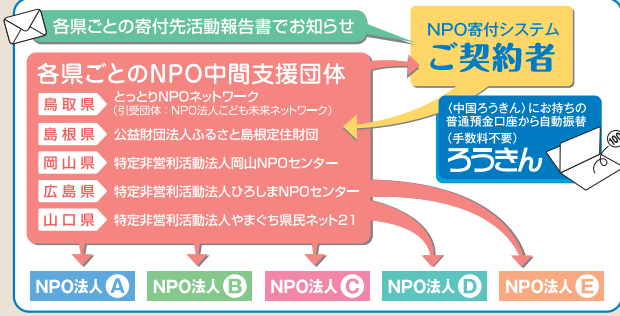
100円からできるボランティア 中国ろうきん NPO寄付システム

(ろうきん)は「NPO寄付システム」で、あなたの想いをNPOに届けるお手伝いをしています。

〈NPO寄付システムのしくみ〉

- 寄付額 1回100円から(100円単位)
- 寄付コース 「毎月定額」または「随時」の2タイプ
- お申込対象 (中国ろうきん) 普通預金口座をお持ちの方(個人・団体とも可)
- 寄付先分野 NPOの活動19分野におまかせコースを加えた20コースから寄付先分野をご指定いただけます。

どうやったら寄付システムに申込みできるの?
最寄りの(ろうきん)窓口にて「中国ろうきんNPO寄付システム申込書」に必要事項をご記入のうえ、ご提出ください。

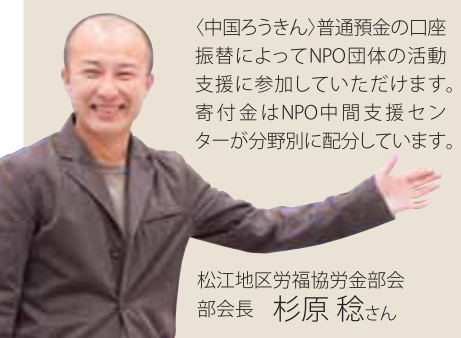


来場者に「NPO寄付システム」のしくみを紹介

「イベントなどの場を活用して、これからもたくさんの人にNPOの思いを伝えていきたい。何を感じていただくかが今後の課題です。」



▲大きなパネルや資料も用意



松江地区労福協労金部会 部会長 杉原 稔さん

「地域をもっと良くしたい」そんな活動に取り組むのがNPO。



NPO法人 もりふれ倶楽部

誰もが楽しみながら 森林について学べるように

現在130名の会員で構成されている「もりふれ倶楽部」の活動目的は、「森林保全の大切さ」や「里山の食・文化」を多くの人に伝え、森と人とのふれあいをサポートすること。「島根県の森林の4割は人工林。一度人間が手を加えた森は、間伐などの手入れを怠ると、保水力がなくなり、災害に弱く、動植物も生息できない荒廃した森になってしまいます。だから整備が大切。」と語る野田事務局長は、今日も笑顔で、森林と人とのよりよい共存のために奮闘しています。



森の大切さをさまざまな角度から伝えたい。



1 子どもたちに植物や木の説明をする野田さん。みんな興味津々 2 間伐の様子。森に太陽の光を導くための、大切な作業です 3 直接学校に出向き、講義をすることも。普段森に行くことの少ない生徒たちにとって、貴重な時間です



事務局長 野田 真幹さん

取材協力/
NPO法人 もりふれ倶楽部
松江市宍道町佐々布3352
☎0852-66-3586
http://www.morifure.jp/



厨房の整備拡大に協力いただけたら幸いです。



取材協力/
NPO法人 みけねこ
(事業所名: 就労継続支援 B型事業所「ショップみけねこ」)
松江市古志原5-820-13
☎0852-31-9089



1 田中所長自ら型を作成。地元の「おやこ劇場」からの依頼があれば、劇中に出てくるキャラクターを作ることも 2 店頭にはクッキーがずらり。夏には約600箱、冬には約800箱ものギフトクッキーも作ります 3 細かい作業をていねいに行っています

NPO法人 みけねこ

知識の習得や 能力の向上をめざして

障がいのある方が、働くことを通して自立した社会生活をおくれるように、就労支援や在宅支援に関する事業を行っています。事業主体である「ショップみけねこ」は、1998年に養護学校教員と関係者らが、学校卒業後の新たな進路先にと、共同作業所として町のなかにテナントを借り、クッキーの店として開設。毎日200袋以上作るクッキーは、季節感のある形や動物の形などとても手が込んでいて、幼稚園や公民館、児童クラブ、地域のイベントなどで、多くの支持を集めています。